

## 1—2. 産業活動

### (1) 就業者の推移

就業者数は平成 22 年で約 19 万人であり、5 割以上が第 3 次産業就業者である。平成 7 年を境に年々減少傾向にあり、第 1 次産業で約 4 割、第 2 次産業で約 2 割減少している。第 3 次産業のみでは他の産業よりも減少に転じる時期が遅く、平成 17 年まで増加している。

産業別就業者数(人)

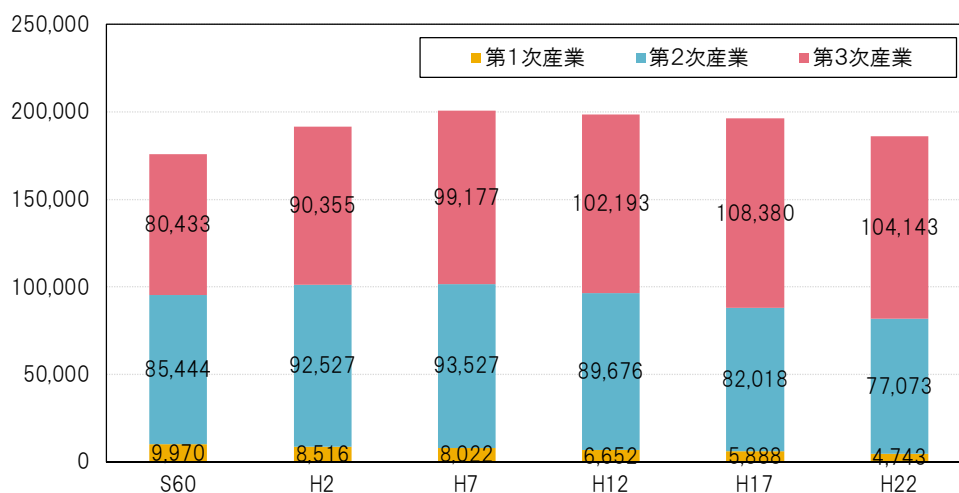


図 1-6 産業別の就業者数の推移

産業別就業者数(人)

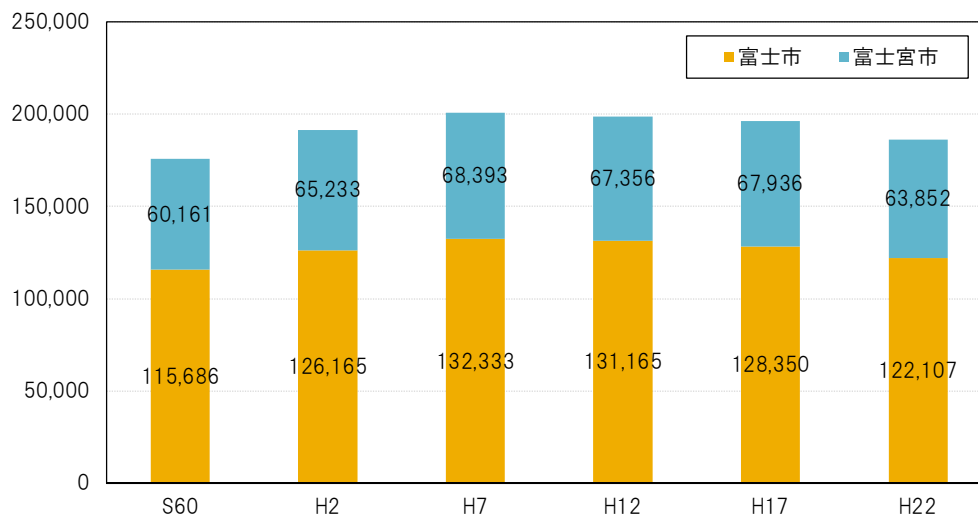


図 1-7 市別の就業者数の推移

## (2) 農業産出額の推移

農業産出額は平成13年から平成18年まで概ね横ばいであり、平成18年で約187億円である。市別では富士宮市が120億円、富士市が67億円と富士宮市のほうが多く、富士市が若干の減少傾向であるのに対し、富士宮市は微増傾向を示している。

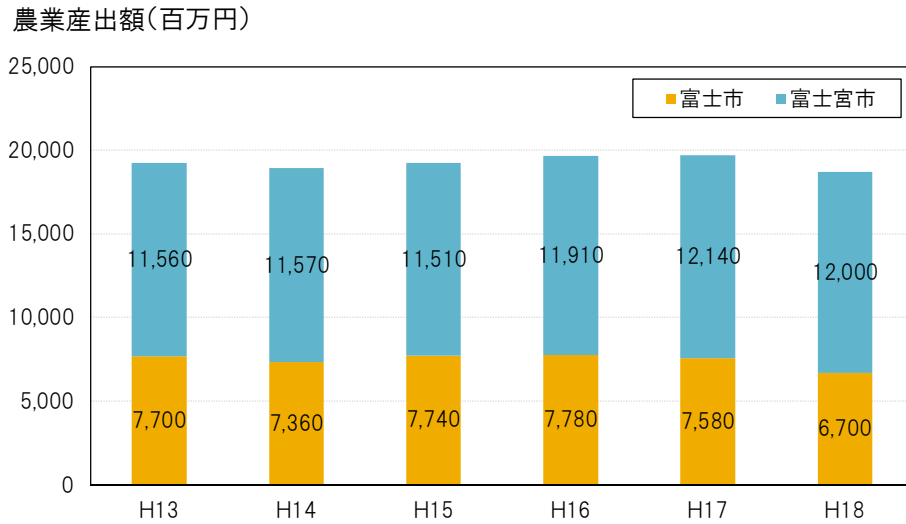


図 1-8 農業産出額の推移

## (3) 製造品出荷額等の推移

製造品出荷額等は平成2年から平成22年まで減少傾向であり、平成22年で約2.1兆円である。市別では富士市が1.4兆円、富士宮市が0.7兆円と富士市のほうが大きい。平成2年からの推移では、富士宮市が3割以上増加しているのに対し、富士市は3割以上減少している。しかし、富士山南麓工業団地や富士山フロント工業団地など工業団地の造成と分譲が進んでおり、今後は工業生産が維持および拡大することが期待される。

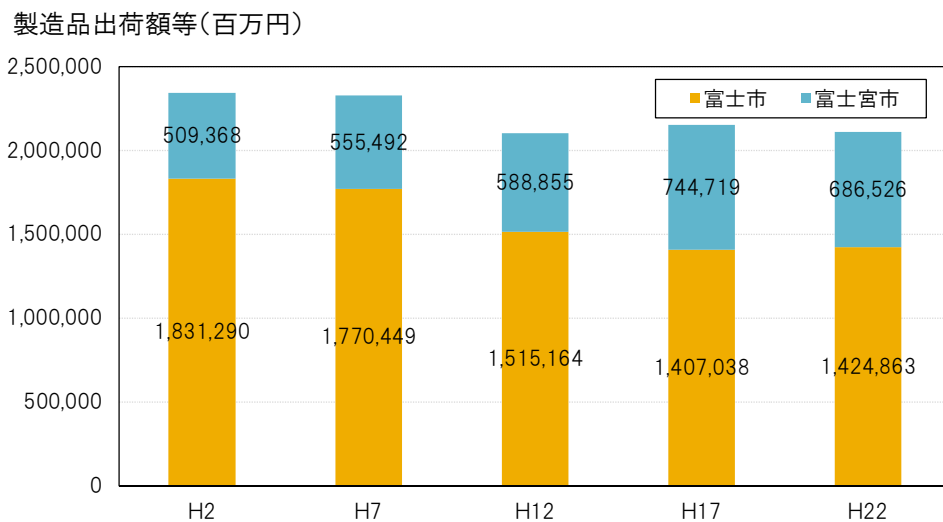


図 1-9 製造品出荷額等の推移

#### (4) 商業販売額の推移

商品販売額は平成6年から平成19年まで減少傾向であり、平成19年で約8,600億円である。市別では富士市が約6,800億円、富士宮市が約1,800億円と富士市のほうが3倍以上大きい。平成6年からの推移では、富士宮市、富士市ともに1割以上減少している。

年間商品販売額等(百万円)

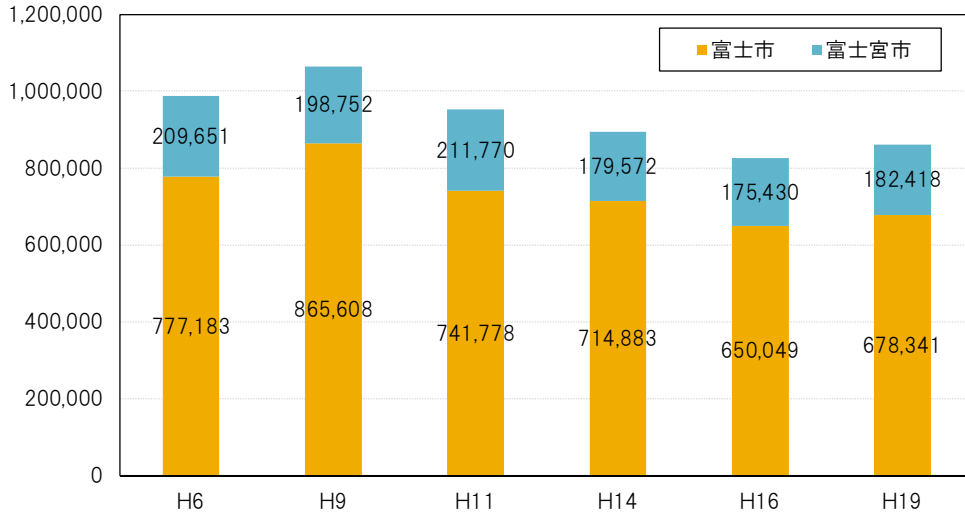


図 1-10 年間商品販売額の推移

#### (5) 観光客数の推移

観光交流客数は平成25年で年間約1,205万人であり、昭和63年の620万人から2倍近く増加している。富士宮市では約2割、富士市では4倍近くの増加を示しており、世界遺産化により今後さらに増加することが予想される。富士市は平成12年を境に特に増加しているが、これは富士川サービスエリアの開業に伴うものであると推測される。

観光交流客数(千人)

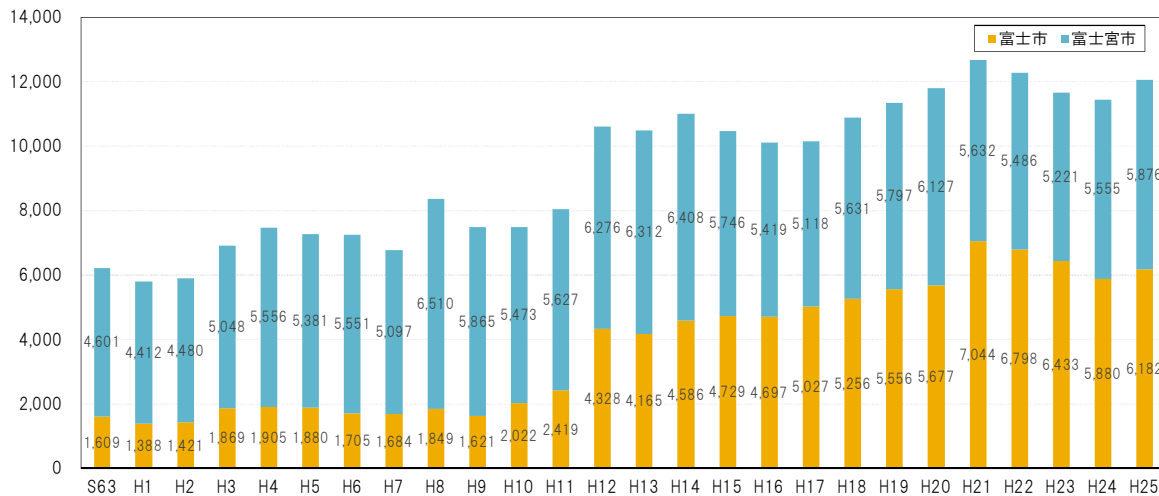


図 1-11 観光交流客数の推移